

～季節の話題～

# 季節の変わり目には要注意！！



暑かった夏からいよいよ秋へと季節の変わり目です。涼しくなって、ワンちゃんネコちゃん達にも過ごしやすい時期がやってきました。暑い夏の間には健康にも気を配りますが、涼しくなると安心して忘れがちになってしまうかもしれません。過ごしやすいとはいえ、この時期にも健康管理に注意を向けましょう。

＜夏の酷暑、秋口の気温変化は大きなストレスになります。一度健康診断を受けてみては!?＞

☆秋口は昼夜の気温の変化が激しい季節です。気温の変化で体調を崩さないように気をつけましょう。高齢のワンちゃんネコちゃんには特に注意が必要です。

☆涼しくなると犬は換毛期に入ります。この時期は、夏に皮膚や被毛にダメージを受け、脱毛量が増加したり、皮膚トラブルを生じる場合もあります。普段よりも念入りにブラッシングを行うことで、無駄な抜け毛の除去とマッサージ効果が期待できます。

秋は夏の暑さで消耗した体力を回復する時期です。ここでしっかりと体調を整え、冬に備えましょう！

(獣医師 佐々木悠)

## 犬種別のコーナー: 毎回、犬種別に色々な事を紹介していきます

今回は **柴犬** 編

体高: 35? 40 cm  
体重: 9? 14 kg

**プロフィール** (柴犬編)

**特徴**

- 背中の上に巻く巻尾
- 特徴的な三角形の目
- 被毛は堅く上毛はやわらかい
- 毛色は、赤、胡麻、黒胡麻、赤胡麻、黒褐色など

**ルーツ**

縄文時代から飼われてきた日本原産の小型犬。小型動物の狩犬として活躍していました。1973年には、天然記念物の指定を受けている。

**性格**

- 一本気で我慢強い
- 主人思いの忠犬
- 賢くて情愛深い
- 犬警戒心が強く、感覚も鋭敏

**かかりやすい病気**

- 緑内障
- 甲状腺機能低下症
- アトピー性皮膚病 など

性格は、犬の頃のしつけによって、変わってきます。色々な人に慣れさせておく。社会性のある子にしてあげて下さい。担当は クロサキ でした。

# さくら通信

第2号

平成20年9月発行

発行者

さくら動物病院

新聞編集委員

## お知らせコーナー

9.10月の休診日:

9/2,9,16,23,28,30

10/7,14,21,26,28

院長不在日の予定

※ 詳しくは院内掲示板  
をご覧ください

バビーパーティー

A: 9/14 ,10/12

B: 9/7, 21,10/5,19

<http://members.cknet.ne.jp/sakura/home.htm>

この新聞はホームページ  
で閲覧出来ます。

## 院長のコラム : 「がん」について① 急増しているの？

このコーナーでは「がん」についての情報をシリーズでご紹介します。

最近、がんになる犬や猫を診察する機会が増えました。データによると約十年前からがんになる犬猫は急増しています。これは、犬猫ががんになりやすくなったのではなく、人間と同様に、食生活の向上や予防医学の普及などにより、寄生虫病や伝染病が減り、寿命が延びて、その結果、成人病や老人病、慢性疾患、アレルギー疾患、そして「がん」が非常に増えてきています。言い換えれば、**がんになるまで生きられるようになった**のです。

### ◎犬の死因

No1 悪性腫瘍 (47%)、No2 心臓病 (12%)、No3 腎臓病 (7%)

### ◎猫の死因

No1 悪性腫瘍 (32%)、No2 泌尿器疾患 (23%)、No3 心臓病 (9%)

病院の動物たちを紹介します。



★ 六花(りっか) ♀ 1オ

- ・貧血などの症状があるワンちゃんに対して輸血犬として活躍します。
- ・目の角膜などに傷がついてしまった子に対して「自家血清」という点眼が処方される場合がありますが、この「自家血清」は、六花の血液から作られています。
- ★ 六花は定期的に血液検査をしています。



★ 麦造(むぎぞう) ♂ 7オ

・病院のアイドル。腰の調子がよくないので療養中。



★ アロエ ♀ 3オ



★ フラム ♀ 3オ

・貧血のネジちゃんに対して輸血猫として活躍します。

看護師 荒木由梨亜

# 食欲の秋到来♪

今年の夏も暑さが厳しかったですね：夏バテなどしませんでしたか？ さて、秋といえば食欲の秋！ 夏の暑さで落ち気味だった食欲が元に戻ってきたはず。しかし、食欲旺盛だからといって何でも食べさせていいわけではありません。そこで今回は、動物に与えてはいけない食物・口にすると危険なものを紹介します。

《ネギ類・ニンニク・ニラ》

これらの食品に含まれる化学物質が貧血や血尿を引き起こします。含まれる成分に毒がありますので、味噌汁やシチュー、お鍋の汁だけ与えても中毒になります。中毒を起こす量は人間のアルコール中毒と同様に個体差があります。猫の方が犬より敏感といわれています。

《チョコレート》

チョコレートに含まれるテオブロミンという物質が中毒を引き起こします。ちなみに、ホワイトチョコレートはテオブロミンの含有量がわずかなので極端に心配する必要はありません。

《アボガド》

動物が摂取すると、心臓や乳腺組織が損傷を受けたり、呼吸困難あるいは全身の浮腫が起ることがあります。

《牛乳》

犬・猫は牛乳に含まれる乳糖を消化できないため、多量に摂取すると下痢を起すことがあります。

《誤って口にすると危険なもの》

《タバコ》

タバコに含まれるニコチンが中毒を引き起こします。興奮、振戦、幻覚症状、嘔吐、下痢、唾液分泌などの症状を示します。

《ヒキガエル》

耳の後ろにある大きな耳下腺や皮膚の毒腺（イボ）から、外敵から身を守るための強力な毒液を分泌します。毒性はヒキガエルの種類によって異なりますが、中には致死性のももあります。好奇心旺盛な犬は、びよんびよん飛んでいるカエルに興味を抱いて噛んだり口にに入れてしまう危険があるので注意が必要です。呼吸困難、吐き気、運動麻痺、発作、痙攣などの症状を示します。

＊命を落とす可能性もありますので、これらのものを口にしてみてください！



獣医師 村瀬 由理枝

まだまだ暑い日が続きますが

みなさんどうお過ごしですか。

僕は海に行って真っ黒に日焼けしました!(ウソです)



## アビちゃん 体験記 Vol.2

— — —

A A A (動物介在活動)に適した動物は犬や猫、ウサギ、小鳥、モルモットなどペットとして家庭で飼育される愛玩動物です。誰に触られても大丈夫で、どこでも落ち着いていて、活動を楽しめる動物とその飼い主とで訪問などをします。活動への適性は、猫やウサギなどは生まれながらの素質が大部分を占めますが、犬は訓練性能の高い動物ですのでトレーニングで活動に適した子に育てることができます。病院の輸血犬・六花ちゃん(りっか)は少々(?)御転婆さんなので、もうちょっと落ち着いてくれたらグ〜なのですが。まあお尻のハートがカワイイので大目に見てください。(次回お見せしましょう) ちなみに僕は真っ黒で大きいので、よく怖がられちゃいました。

### 編集後記

当院の待合室で「アビ」も流れている犬の十戒がもたになり、制作されたので「アビ」犬と私の十の約束の映画(舞台は函館)を娘と見に行つた日のことである。主人公の犬ソックスが函館の街をさまよっている。路面電車で飛び乗つてしまつた。娘は妙にエキサイトして大きな声で笑つていた。隣の方が振り向くほどに……「アビ」の映画の映画を理解出来るのだ。「アビ」は私と私の不安になつた。曰く「アビ」の命が理解できていないと思われる言動が多い娘が、後半のソックスが死んでしまつた映画のクライマックスの場面から娘は大泣き、家に帰るまで泣いていました。途中で私は娘にハンカチを差し出しました。我が家も、病気の高齢の犬を飼っています。その「アビ」環境にあると、自然と情操教育ができていくことに少し安心した気がした一日でした。(加藤)